マイナンバ

の準備が遅れている実態が浮き彫りとなった。

埼玉県川口市国民健康保険課には、手続きに番号が必要なことを知らない市民が多数訪れた。当面の対応として番号がなくても受理したため大きな混乱はなかったが、担当者は「制度をきちんと説明しないといけない。手続きに時間がかかるかも」と不安げだ。東京都内の自治体を訪れた無職男性（55）は「制度の趣旨も分からないし、記入は面倒」とこぼした。

神奈川県横須賀市では、児童手当などの申請用紙に番号記入欄をまだ設けていない。しばらくは余白に書いてもらうという。

一方、不在や転居などにより、通知カードの相当数が受け取られず、市区町村に保管されたままになっている。

東京都足立区では、昨年末までに全体の11%に当たる約3万7千通の通知カードの保管先が、郵便局から区に移った。不在が重なって受け取れなかった場合もあるとみて、簡易書留で再送している。ただ担当者は「相当数がまた戻ってくるだろう」と嘆く。

今後のマイナンバー関連の動き

- 自治体手続きで個人番号を記入（1月4日～）
  - 例 児童手当の新規認定請求
  - 例 生活保護の申請
  - 例 国民健康保険の加入
- 個人番号カードの交付開始（近日中）
- 企業が従業員らの番号収集を本格化

個人番号記入〝一番乗り〟

ハローワーク西陣　社労士らPR

マイナンバー制度が今年から始まり、京都府社会保険労務士会（京都市上京区）のメンバーが4日、ハローワーク西陣（同）で個人番号を使った雇用保険の手続きを行った。

制度開始をPRするため、府社会保険労務士会の社労士3人が一番乗りでハローワークを訪れた。市内の4事業主が従業員の個人番号を記入した雇用保険の申請書を届け出た。

ハローワークの担当者から返却用の書類を受け取った同会の高橋伸雄常任理事

審査を終えた雇用保険の書類を社会保険労務士（左）に手渡すハローワークの担当者＝京都市上京区・ハローワーク西陣

シロアリの巣　多様性の謎解く

個体数とフェロモンが鍵

シロアリが、リーダーや設計図なしで、多様な構造の巣を作るメカニズムを、京都大農学研究科の大学院生水元惟暁さんらが突き止めた。巣作りや幼虫の世話など、昆虫の複雑な集団行動の背景解明につながる。英科学誌に発表した。

京大院生ら英誌発表

シロアリは木くずや土を使い、大きいと数十㎡四方の範囲で巣を作る。構造の違いは、群れの個体数や気温、材料などが一因だが、同一環境で個体数が同じ巣でも構造に違いが生じる理由を説明できなかった。

巣の構造に関わる要因を探るため、水元さんらは京都市や大津市で採取した五つの巣のシロアリを使い、実験室内で巣を作らせてパターンを解析した。実際の観察を基に、巣作りに参加するシロアリの個体数と、巣作りの情報伝達に使う「セメントフェロモン」の感受性に着目。この二つの要因を反映させたモデル式を作製し、コンピューターシミュレーションを行うと、巣の構造が再現できた。

水元さんは「単純な要因の違いが、巣の構造の多様性につながる過程を再現できた。シロアリの群れごとにある『個性』の正体が分かった」と話している。

（広瀬一隆）

発光ダイオード（LED）の受に取り通れに伴い、集約作業は進んでいない。特にアルバイトやパートの割合が高い小売業や外食業は手間が掛かる見込みだ。

た街角の看板を条例で規制し、体が目立ってきた。消費電力が長寿命が売りのLED看板ながらのネオンに代わって、及。激しく点滅したり、鮮が流れたりする看板もあり、付近ではドライバーが信号す恐れがあるためだ。

福岡市は屋外広告物条例し、2016年10月から動